

目録システム地域講習会（図書コース）受講報告

高田綾子

はじめに

平成14年9月18日(水)から20日(金)に関西大学の情報処理センターサテライトステーション2を会場とした国立情報学研究所の目録システム地域講習会を受講する機会を得た。

以下にこの講習会の報告を行なう。

目録システム講習会とは

目録システム講習会とは、国立情報学研究所が「目録情報所在サービスの参加機関において目録業務を担当する職員を対象に、目録情報所在サービス参加機関の目録業務担当者が共通に理解しておくべき、総合目録データベースの構成、内容、データ登録の考え方（入力基準）を習得する機会を提供する」ことを目的に行っているものであり、主な担当業務により、「図書コース」「雑誌コース」の2コースが設けられている。

筆者が受講した目録システム地域講習会とは、各地域の大学図書館との共催により、共催機関を会場として、国立情報学研究所で実施するものと同じの内容で開催する講習会である。今回は私立大学図書館協会と国立情報学研究所の共催であった。

講習会の概要

講習会は目録システムについてのビデオとテキストによる講義以外は端末に向かって実習課題をこなしていくというものであった。

参加は19機関（表1参照）からあり、受講人数は

京都大学	神戸市外国語大学
国立民族学博物館	神戸薬科大学
関西外国語大学	大阪学院大学
関西大学	大阪体育大学
関西福祉大学	筑紫女学園大学・短期大学
広島国際大学	帝塚山大学
皇學館大学	梅花女子大学・梅花短期大学
高野山大学	兵庫医科大学
四国大学	龍谷大学
四天王寺仏教大学	

表1 講習会参加機関（当日配布資料より）

25人であったが、講師補助者が多かったので疑問点をその場で解決できた。しかし、課題集をすべてこなしてその時限の時間を持って余す方もいたようであり、実務経験の差というものを感じた。

参考までに表2に講習会のカリキュラムを挙げておく。

目録システム

目録システムは、研究者の研究活動を支援するため、全国の大学図書館等にどのような学術文献（図書、雑誌）が所蔵されているかという目録所在情報が分かる総合目録データベースを構築するためのシステムである。

このシステムは参加図書館によるオンライン共同分担入力方式を取っている。よって、総合目録データベースを検索し、該当する書誌に登録があればそれを利用できる。反対に該当する書誌に登録がなければ現物に基づき新しい書誌を作成しなければならない。また、データベースを効率的に形成するために、標準的な目録であるMARC（MACHINE READABLE CATALOG）を参照ファイルとして利用することができる。

総合目録データベースは、NACSIS-ILL（図書館間相互貸借システム）やWebcat（WWW総合目録データベース検索サービス）、NACSIS-IR（情報検索サービス）等で活用され、一般利用者へ提供されている。さらに、参加図書館はデータをダウンロードし、所蔵目録データベースを構築して利用する事によってOPAC（利用者用オンライン目録）を一般利用者へ提供する事も可能となる。また、OPACは選書、発注・受入業務、貸出などの図書館業務に有効に活用する事もできる。

目録情報の基準

目録システムにおいて、レコードを共有するためには参加館間での共通の理解が必要である。目録情報の基準はそのために定められたマニュアルの一種であり、データベースの構造やデータ作成のための原則・考え方を示す目録システム内での目録情

月 日	時 間	講 習 内 容	講 師
9月18日	9:30~9:45	開講式・事務連絡	
	9:45~12:00	目録システム概論 目録情報の基準	河原田 伊左男(関西大学)
	12:00~13:00	昼休み	
	13:00~17:00	PC操作説明 目録検索 検索実習・解説	小堀 幸(神戸女子大学)
9月19日	9:30~12:00	登録総論 登録実習 ・所蔵登録 ・書誌流用入力(参照ファイルから・階層なし)	高山 広美(大阪大学)
	12:00~13:00	昼休み	
	13:00~17:00	登録実習 ・書誌流用入力(参照ファイルから・階層あり) ・書誌流用入力(参照ファイルから・出版物理単位) ・書誌流用入力(総合目録データベースから)	河原田 伊左男(関西大学)
9月20日	9:30~12:00	登録実習 ・書誌新規入力 ・書誌修正	多田 剛志(大阪外国語大学)
	12:00~13:00	昼休み	
	13:00~16:30	補 習 自由演習	大西 直樹(大阪大学)
	16:30~17:00	アンケート記入・閉講式	

講師補助：田中 恵美(関西大学)・徳岡 久実(関西大学)

表2 目録システム講習会カリキュラム(当日配布資料より)

報の標準化を行う、といった目的が挙げられる。その他、入力規則を定めたコーディングマニュアルなど、共通理解のためのマニュアルが用意されている。

所 感

講習会の受講は目録規則の理解を前提としているということであったので、実務経験の浅い筆者が講習会についていけるのか不安であった。しかし、理論だけでなく実習も多数用意されており、なんとかついていくことができた。今後の業務にこの講習会で得た知識を活かしていきたいと考えている。

また、他の図書館の方と接する機会を持てたこと

も大きな収穫であった。

最後に、この講習会でお世話になった方々にお礼を申しあげたい。

〔参考文献〕

- 目録システム講習会『テキスト 図書編』(当日配布資料 A4版128ページ)
 国立情報学研究所“目録システム講習会・目録システム地域講習会”〔参照2003.3.15〕
 (<http://www.nii.ac.jp/hrd/HTML/cat/>)

(たかた あやこ 運営課)